新しい視点で日本近代史を学ぶ新・日本の近代史

アジア・太平洋戦争

~兵士と東南アジアの視点から~

(http://jugyo-jh.com/nihonsi/)

# はじめに~「なぜ、日本人はフィリピンにきたのですか?」

①2018年2月フィリピンの戦跡めぐり ルソン南部・サマール島・レイテ島 多くの慰霊碑・破壊された施設などをめぐる

動機:戦争の現場にいってみたい

母方の伯父の戦死した地をみたい

感想:「なぜ兵士たちはこんなところに来て

死なねばならなかったのか?」

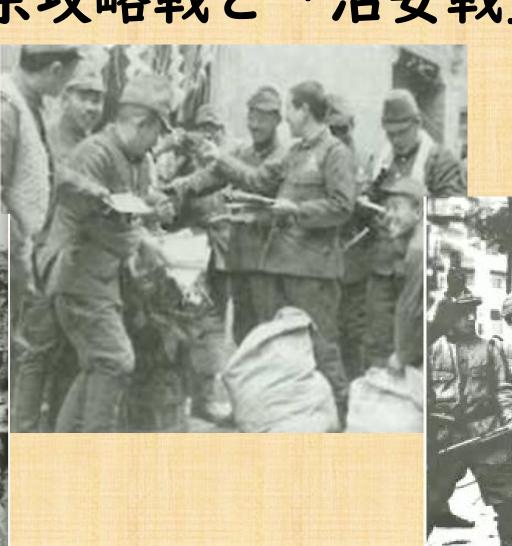
②陽気なドライバーたちの真剣な問い

ふたりとも親族にゲリラの関係者をもつ 「なぜ日本人はフィリピンに来たのか?」

「兵士の生と死」「アジアと日本」を 中心に「あの戦争」を考えてみたい。

# I、中国大陸における兵士たち ~上海・南京攻略戦と「治安戦」~





# (1)一撃で解決するはずの戦地の「兵士」たち~日中戦争最大の激戦地=上海~

- ①上海攻略戦に投入された兵士たち
  - 1)中国側…ドイツ軍人に鍛えられた最精鋭部隊 市民の支援
  - 2)日本側…主に召集した予備役・後備役の兵士 対ソ戦に向けて、現役兵を温存。
- ②有力な中国軍の攻勢の前に劣勢に →増援部隊・武器弾薬を次々と投入
- ③海軍力と空軍力で盛り返し、杭州湾上陸作戦により形勢逆転、日本側の勝利に



#### 兵士たちが出会った戦場 ①臭い・音

#### ①強烈な臭気

- 1) ウジとハエにおおわれた腐敗した散乱死体が 発するガス←激戦で屍体を回収できない
- 2)排泄物の臭い←戦闘態勢のままでの排泄 建物や遮蔽物のなかも排泄物だらけ
- 3)煙硝と土煙

#### ②不快な音響

- 1)銃弾・砲弾の発射音、爆裂音
- 2)傷ついた兵士の叫びや悲鳴
- 3)恐怖や狂気の声



#### 兵士たちが出会った戦場

- ①喉の渇きのなかでの飲料水確保のため 泥水・汚水・死体が浮かぶ水たまり ボウフラ混じりの水であってもよい 「野川の水 濁れる呑みて なほ行きぬ 遺棄死体浮けり その水上に」
- ②「水」による下痢⇒アメーバ赤痢の流行戦病死者の死因、第一位

#### ②水

ペリリュー島でのアメリカ兵の手記

意外にも水は茶色かった。それでもかまわず口を満たした—-

そしてひどく喉が渇いていたにもかかわらず、思わず吐き出しそうになった。ひどい味だ。錆と油をたっぷり含み、悪臭がする。

あらためて手元のコップをみて仰天した。鼻を突く茶色い水の表面に、青い油の膜がゆらゆらとゆれていたのだ。腹がよじれるように痛んだ。/ かないで倒れるかしかない。飲み干すと、ボーンで倒れるかしかない。飲み干すな錆の水が残り、胃がキリキリ痛んだ。(アメリカ兵の手記)

#### 兵士たちが出会った戦場 ③ありふれた死

- ①接近戦…必死の形相の敵兵士と銃 剣で殺し合う。血しぶきを浴びるこ とも
- ②なかまの死…自分の村や地域の知 人・同級生・同窓生の死を看取らね ばならない。
- ⇒中国兵・人民への激しい怒りと 復讐心



- 南京城に迫る日本の工兵部隊 12月11日。手前の兵 士が背負っているのは、完成直後の火焰発射器。このため 発表不許可となった写真

### (2)断ち切られた兵士の願い=南京攻略戦へ

①上海でたたかった兵士たちの願い 故郷に・妻子や家族のもとに帰りたい。 仕事に復帰したい。

そのため苦しい戦いに耐えてきた・・・

- ②夢見た帰還命令ではなく、進撃命令。 またも命令無視の戦闘拡大
  - →「南京一番乗り」をめざす司令官たち
- ③絶望し、荒れる兵士たち
  - →怒りの矛先は、抵抗を続ける中国側に
  - →軍紀違反・非行の大量発生
- ④「世界の目」という感覚も薄れる

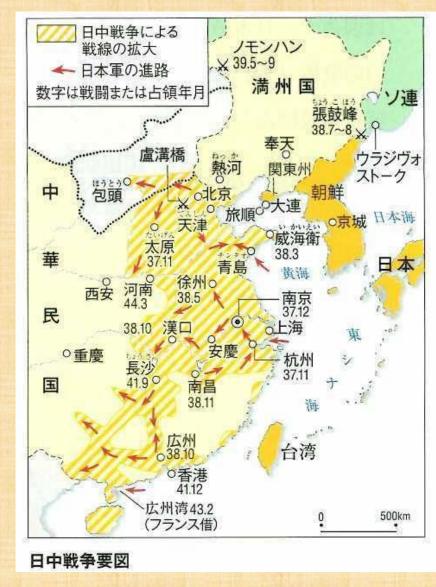


#### 無計画に始められた南京攻略戦、その結果

- ①補給の計画・準備なしでの作戦開始
  - =精神主義・無責任な陸軍のあり方
- ②物資の補給なしに戦いを命じられる
  - =「敵地に糧を求める」との指示、その意味は。
  - →「徴発」という名の略奪の横行
- ※日本軍の特徴=輸送を軽視(←兵士の待遇を反映)「輜重輸卒が兵隊ならば、トンボチョウチョも鳥のうち」輸送手段は駄馬が基本

トラックなどは数も少なく性能も悪い

⇒戦地・占領地での略奪行為は、日本軍のもつ 組織的欠陥が生みだした側面が大きい。



#### 南京への進撃路~「徴発」という名の略奪

- ①生きていくための食料確保=「徴発」
  - ⇒暴力的な「徴発」の横行 実態としての略奪とその過程での暴力
- ②暴力のエスカレート…暴行、殺人、強姦
  - →証拠隠滅のための放火
- ③戦地刑事犯の急増、とくに強姦罪
  - ⇒副産物としての「性感染症」
  - ⇒従軍慰安所開設に



#### 「徴発」という名の略奪②軍紀の乱れ

①ぞくぞくとやってくる日本兵と、かれらによる放火など徴発のエスカレート

⇒荒廃していく農村、<mark>通過後は何も残</mark> さないイナゴのような軍隊(「蝗軍」)

②軍紀の乱れ…荒廃していく倫理

「おまえたちも掠奪してきた物を食べているんじゃないか!」「きれい事いうな!」

- ③司令官も見て見ぬふり 「それなら食料をもってこい!」
- 4軍紀立て直しの必要性
  - ⇒「戦陣訓」成立のきっかけに



南京市内での略奪品を運ぶ兵士たち

#### 兵士たちが出会った戦場「行軍」

①中国での兵士たちのもっとも辛い体験=「行軍」 30~50キロの荷物を担ぎ、20~30キロを行軍する。

灼熱赤土の道を行軍する兵士の中から、日射病・熱射病で倒れる兵士たちがぼつぼつあらわれてきた(中略)小銃は肩に食い込み帯革(ベルト)は腰部に擦傷をつくる。体重・荷重は両足にものすごい負担をかけ、日に20キロ近くを行軍するため、靴傷ができる。(中略)まず水疱状の豆が出来る。それがつぶれる。皮はずるむけになり、不潔な靴下のために潰瘍となりさらに進行すると完全に歩行は出来ない。広大な予南平野はただでさえ水が乏しい。(中略)

小休止中、「ドカーン」ともの凄い爆発音が聞こえる。(中略)ああい、体力・気力の尽き果てた岩い兵士(中略)が苦しみに耐えかね、自ら手榴弾を発火させ、胸に抱いて自殺

<mark>するのである。</mark>(中略)この宜昌作戦間にこの連隊において<mark>38人の自殺者</mark>を出した。 (「歩兵第206連隊戦史」)

②行きがけの中国人に荷物を運ばせるやり方が一般化(苦力) ⇒金やものを渡して解放することもあったが…。

### (3)南京攻略戦と中国兵

- ①日本軍の接近⇒周辺農村から多くの人びとが城内へ逃げ込む
- ②中国軍司令官、徹底抗戦を唱え、農兵などを結集⇒日本軍接近の中で逃走
- ③12月日本軍の南京を包囲、攻撃開始
- ④城内には、多くの兵士(実際は農民など)が残される。
  - ⇒城外への逃亡を図るが日本軍が包囲
  - ⇒大量の投降兵の出現
  - ⇒多くは軍服をすて、一般の服装
    - (「便衣」)に着替え、市内に潜伏



上:戦火に追われる人びと(上海付近)

下:とらえられた中国兵

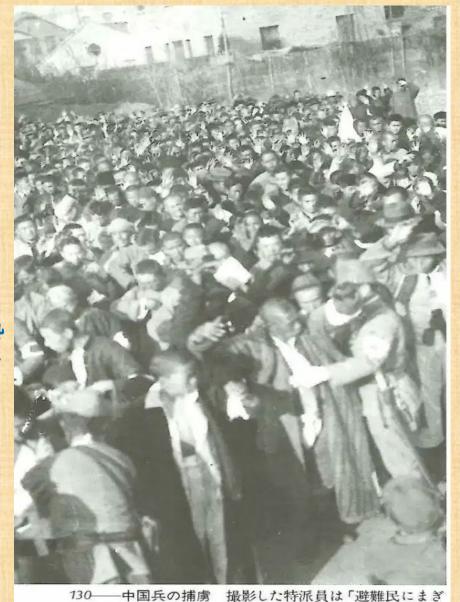


#### 「残敵掃討」と捕虜の出現

- ①日本軍による「残敵掃討」
  - →隠れている兵士の捜索
- ②過程での略奪・暴行・強姦などの多発
- ③中国兵の選び出し→どのようにして?

「靴ずれのあるもの、面タコのあるもの、きわめて姿勢の良い者、目つきの鋭い者など」よく検討して敗残兵を選び出す。(兵士の日記より)

- →結局、一定の年齢の男子の大部分を連行
- ④投降兵とともに大量の「捕虜」が出現
  - →捕虜の扱いのルールは? 食糧は?だれが、どこで監督する?



130—中国兵の捕虜 撮影した特派員は「避難民にまぎれ逃亡をくわだてた約五、六千名の正規兵」という説明をつけてきたという。このあとどうなったかは不明。南京城内中山路、12月16日

#### 中島今朝吾師団長の日記

#### 中島今朝吾第十六師団長日記(1937年12月13日)

一、たいたい捕虜はせぬ方針なれば、かたっぱしよりこれを片付くることとなしたれども、千、五千、一万の群衆となればこれが武装を解除することすら出来ず・・・部隊をトラックにて増派して監視と誘導に任じ、十三日夕はトラックの大活動を要したり・・・

一、後に至りて知るところによりて佐々木部隊だけにて処理せしもの約一万五千、太平門における守備の一中隊長が処理せしもの約一三〇〇、その仙鶴門付近に集結したるもの約七八千人あり、なお続々投降し来たる。

一,この七八千人を片付くるには相当大なる壕を要し、なかなか 見当たらず。一案として百二百二分割したる後、適当の箇所に誘 いて処理する予定なり。

(『増刊歴史と人間』)



中島今朝吾 (1881~1845) 大分県出身、 当時陸軍中 長。のち日中 長。の停戦をお かる上申書な どを出す。

実教出版「高校日本史A」

#### 偕行社「南京戦史資料集」

偕行社…もともと陸軍将校による親睦団体。戦後は陸軍の元将校・士官候補生・将校生徒・軍属高等官および、陸上自衛隊と航空自衛隊の元幹部の親睦のための公益財団法人となる。

- ①南京大虐殺がまぼろしであることを証明するため 証言を募集
- ②実際には、虐殺をうらづける証言が多数にのぼる。
- ③「総括的考察」において「資料にもとづく真実で如何ともしがたい」と記す。
- ④殺害した人数を3000人ないし13000人としたうえで「この大量の不法処理には弁解の言葉もない。 旧日本陸軍につながる者として、中国人民に詫びるしかない」と記した。



偕行社「南京戦史資料集」

#### 『聖戦』の実態を天皇に伝えた「若杉大尉」

- ・わたくしの信念が根底から揺りうごかされたのは, じつにこの | 年間であった。いわば『聖戦』というものの実体に驚きはてたのである。
- ・ 罪もない中国の人民にたいして犯したいまわしい暴 虐の数かずは、いまさらここにあげるまでもない。
- ・かかる事変当初の一部の将兵の残虐行為は,中国人の対日敵愾心をいやがうえにもあおりたて,およそ聖戦とはおもいもつかない結果を招いてしまった。
- ・ 聖戦という大義名分が、事実とはおよそかけはなれたものであったこと、そして内実が正義の闘いではなかったからこそ、いっそう表面的には『聖戦』を強調せざるを得なかったのではないか」。
- ・ (三笠宮崇仁『帝王と墓と民衆-オリエントのあけぼの-』)



三笠宮崇仁親王(1915~2016)大正天皇の第4皇子。第二次大戦中は陸軍参謀などを務めた。戦後は古代オリエント史を研究。紀元節復活の動きには、神武紀元の史実性への疑義から反対論をとなえた。

## (4)「治安戦」のなかで「点と線」

- ①日中戦争、「持久戦」に 1938年の徐州作戦・武漢作戦以後、戦線のさらなる 拡大は困難に
- ②日本軍…都市(「点」)と鉄道・主要道路(「線」)の確保しかできない。
  - ⇒広大な「面」(農村)は支配できない
- ③共産党勢力の農村への浸透
  - ⇒「解放区」を拠点としたゲリラ戦展開
  - ⇒日本軍小部隊への奇襲・全滅相次ぐ
- ④まわりがすべて「敵」、命を狙っているとのストレス状況に=「厭戦的思想」の広がり



#### 「燼滅じんめっ作戦」(三光作戦)

- ①燼滅作戦…「敵根拠地を燼滅掃討し敵をして将来生存するあたわざるにいたらしむる」(1940)
- l)「土民を仮装する敵」や「敵性があると認められる l5才以上60才までの男子」を殺戮
  - 2)「敵性部落」の「焼却破壊」
  - ⇒「生け捕るべき必要ある男女まで殺した」との反省
- ②1)担当地域を三ランクに分け「未治安地区」へ の掃討を強化
- 2) 遮断線の構築、「無人区」「集家併村」
  - ⇒村を焼き払い、「人囲い」に強制移住させる
- ③掃討作戦の中で…大量の毒ガスの使用



中国帰還者連絡会編『三光』 三光とは「奪い尽くし(「略 光」)、焼き尽くし(焼 光」)、殺し尽くす(「殺 光」)」ことをさす。

# 兵士たちが出会った戦場 刺突訓練

①Yさんの告白

「肝試しってご存じですか」 「私、やりましたよ」

#### 「肝試し」=刺突訓練

- ⇒新兵に捕虜を銃剣で殺害させる
- ②人を殺すと人間は変わる

「生きた中国人を殺しても、罰が 当たるとは思わなくなってしまっ た」

③藤田師団長の証言 精兵主義のための「教育」

私は各級指揮官として 在職中この精兵主義 の刺殺を教育 して使用すること在任め 行せしめ に600名以上の俘虜用 に600名以上の俘虜用 としめました。

(第59師団長藤田茂の自 筆供述書)



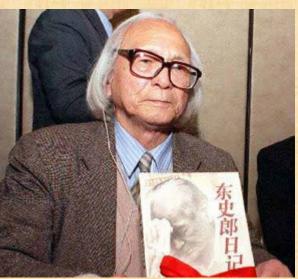
恐ろしいことに私は、この体験をしてから人間がまるで変わってというというというというというというというというというというというとのではなく、虫けらと同様のではなく、虫けらと同様のではなく、生屋芳雄の回想)

#### (5)加害者であり、被害者でもあった兵士たち

- ①「南国土佐をあとにして」の原曲 …「鯨」兵団(第40師団)の望郷の歌
- ②なぜYさんは急に告白したのか?
- ③兵士たちの後半生
- …「虐殺はなかった」ということは





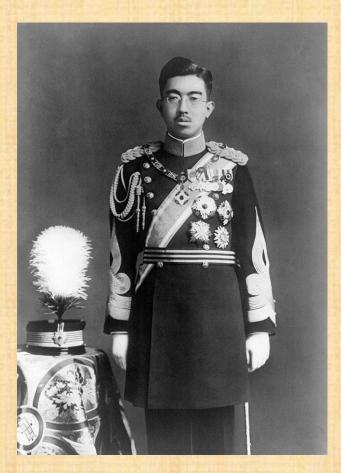


南国土佐を後にして
中支へ来でから幾歳ぞ
思い出します故郷の友が
門出に歌ったよさこい節を
土佐の高知のはりまや橋で
坊さんかんざし買うをみた
よさこい よさこい

月の露営で焚き火をかこみ しばしの娯楽のひとときを わたしも自慢の声張りあげて 歌うよ土佐のよさこい節を みませ見せましょ浦戸をあけて 月の名所は桂浜 よさこい よさこい

#### II、アジア太平洋戦争の開始 ~指導者たちは何を見ていたのか







#### (1)第二次大戦と三国同盟

- ①1939.9 第二次世界大戦の開始
- ⇒1940ドイツ・欧州大陸制圧・英上陸をめざす
- ②三国同盟論の再開=「勝ち馬に乗れ」との議論
- →日本がドイツと結べば、蘭・仏・英の植民地が獲得 できる
  - 1)東亜新秩序の実現
    - →アジアブロックの覇者に
  - 2)中国=蒋介石政権の屈服
    - →援蒋ルート=補給路を切断すれば…
  - 3)天然資源(とくに石油)の獲得
    - →アメリカ依存からの脱却
- ③陸軍⇒米内内閣を総辞職においこむ

援蒋ルートの経路は、合計4つ。

- 1.香港からのルート
- 2.仏印ルート
- 3.ソ連からのルート
- 4.ビルマルート



#### (2)アメリカの危機感=孤立の危機

アメリカ外交の基本=国際協調体制の維持

- ①最大の危惧:イギリスの敗北とナチス中心の新国際秩序建設 欧州とのつながりを失う=アメリカ孤立化の危機
  - 1)イギリス援助の強化→大西洋憲章・武器輸出法など
  - 2)独ソ戦(1941~)後は、対ソ支援も本格化
- ②日本の中国・アジア支配(東亜新秩序)に対抗
  - 1)国民党にたいする支援=援助の強化、不平等条約の撤廃
  - 2)日独接近(三国同盟)によるファシズムの世界支配を警戒
  - 3)日本の南方進出⇒国際秩序の解体阻止へ、フィリピンへの脅威
    - →日米通商航海条約破棄宣言と経済制裁強化
  - 4)他方で、日本との強い経済的つながりの存在

# (3) 第二次近衛内閣成立(40/7)

- ①第二次近衛内閣の課題
  - 1)新体制の構築、2)大東亜新秩序構築、
  - 3)北部仏印への進駐
- ②北部仏印への進駐=ヴィシー内閣への「援助」
  - ・援蒋(仏印)ルートの切断
  - ・石炭などの資源獲得をめざす
- ③日独伊三国同盟の締結 海軍の態度変化(予算拡大をめざす)
- ④アメリカの反発=経済制裁の強化 7月航空機ガソリン、9月くず鉄の輸出禁止



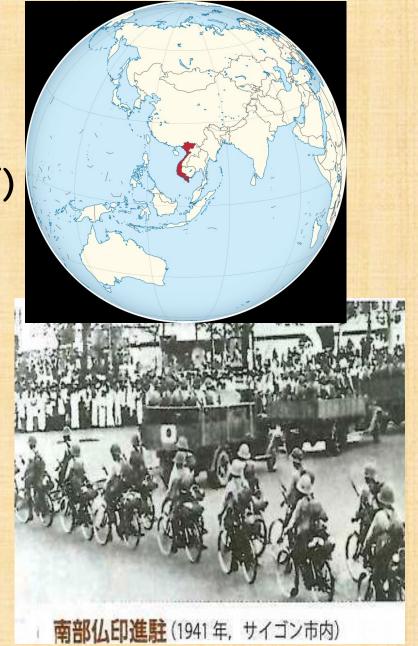
第二次近衛文麿内閣

## (4) 1941年7月の御前会議

- ①1941/6 独ソ戦の開始、ドイツの圧倒的優勢⇒対ソ開戦を求める声のたかまり(松岡外相など)
- ②7月2日御前会議開催
  - =陸軍と海軍、北進論と南進論の調整
  - ・関東軍特種演習の実施

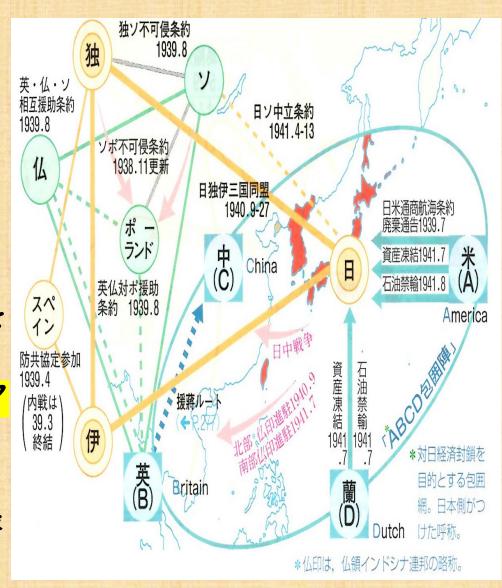
軍隊をシベリア国境に結集→シベリア進出も可能に

- ・南部仏印(=ベトナム南部)への進駐の決定
- ③7月27日 陸海軍部隊、南部仏印への進駐開始
  - =シンガポール・インドネシア・フィリピンへの 爆撃が可能に



### (5)石油禁輸の衝撃

- ①日本の南部仏印への進駐
- ②アメリカの強い反発=対日開戦を覚悟か? 対日資産の凍結(7/26)、石油の全面禁輸(8/1) オランダ(亡命政府→蘭印に影響を維持)も追随
- ③石油禁輸の衝撃=開戦か、妥協かの選択に →軍部など「ABCD包囲網」の脅威を喧伝
- I)日米交渉を本格化し<mark>妥協による石油禁輸解除</mark>を めざすか、
- 2)開戦=石油資源獲得のため蘭印など東南アジア進出か
- ④石油備蓄量というタイムリミット。 さらにアメリカにおける急激な軍需生産の伸張



#### (6)日米交渉の本格化

- 41/4 日米交渉再開・本格化 (野村・来栖大使vsハル国務長官)
- ①米側…
  - 1)仏印からの撤退、2)中国からの撤兵、
  - 3)三国同盟の無効化 を要求
  - →軍備が整うまでの時間かせぎとの指摘も
- ②日本側…
  - 1)勝利の展望は皆無。
  - 2) 1937年以降の「戦果」をすてられるか?
  - 3) <mark>妥協は「敗北」という「メンツ」</mark> ←国内の反発



ハル国務長官(中央)と共にホワイト ハウスに向う野村大使(左)と来栖大 使(右) 1941(昭和16)年11月17 日

## (7)9月の御前会議

- ①勝利への展望をもつものは皆無、だが
- ②はじめるなら、可能性があるなら今!との議論が
  - 1)現状の太平洋の艦隊・航空機の割合では日本がやや優勢
  - 2)米は急激に戦力を増強中→逆転は時間の問題 ⇒ムリを重ねて現状の日本、準備不十分のアメリカとの比較!
- ③9月6日御前会議=開戦の方針を決定

「帝国国策遂行要領」

「10月下旬まで」と期限を切って日米交渉継続

- →不調時は開戦へ
- ⇒天皇は消極的姿勢、海軍は沈黙、近衛は積極的に発言しない

#### (8)閣内対立の激化と近衛内閣総辞職

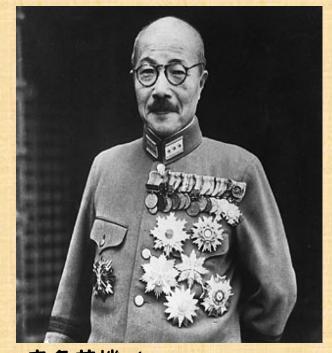
- ①タイムリミットが近づく中で
- 1)近衛…交渉継続、

日米首脳会議開催⇒中国撤兵もやむなしで決着

- 2)陸軍(東条ら)…交渉打ち切り、開戦決意を要求
- 3)海軍…勝つ自信はなし。「近衛がいいだせば賛成する」
  - ・これまで対米戦にむけての軍備を要求してきた立場上…
  - ・太平洋の艦隊・航空機の割合では日本がやや優勢との観測
- ②近衛内閣、内閣不統一を理由に総辞職(10/16)

#### (9)10月、東条英機内閣成立

- ①東条…首相に東久邇宮稔彦王を推薦
- ②木戸内大臣、これを拒否し開戦派の東条を推薦 「陸軍を抑えられるのは東条しかいない!」(木戸) 「虎穴に入らずんば虎児を得ずだね」(昭和天皇)
- ③東条への首相下命
  - 1)条件:9月の開戦決定を白紙撤回、再検討を命じる
  - 2) 東条…開戦慎重派の東郷茂徳・賀屋興宣を入閣させる →天皇の期待に応えようとするが、陸軍の声も
  - 3)企画院などに国力分析を命じる ⇒開戦に向け数字などを改竄?希望的観測?
- ④アメリカの分析→日本は開戦を決意した!と認識



東条英機 (1884~1948) 東京生まれ。関東軍参謀 長・陸相を経て、1941年 首相。内相・陸相を兼任 し、太平洋戦争開戦の最 高責任者となったが、戦 記不利となった同19年総 辞職。戦後、極東国際軍 事裁判でA級戦犯とされ、 絞首刑。

# (10)開戦の御前会議へ(41年11月)

- ①11/5、御前会議
  - 1)9月の御前会議の内容(交渉不調なら開戦)を再確認
  - 2) | 2/|をリミットに←石油備蓄量と気候条件を勘案
  - 3)各部隊に開戦準備にとりかかることを命令
  - 4) 最終交渉案「仏印撤退・石油禁輸の解除」(乙案)提出
- ②大義をめぐる天皇と東条との「珍」問答
- ③対米英戦争の戦闘計画も存在しないままの開戦決定

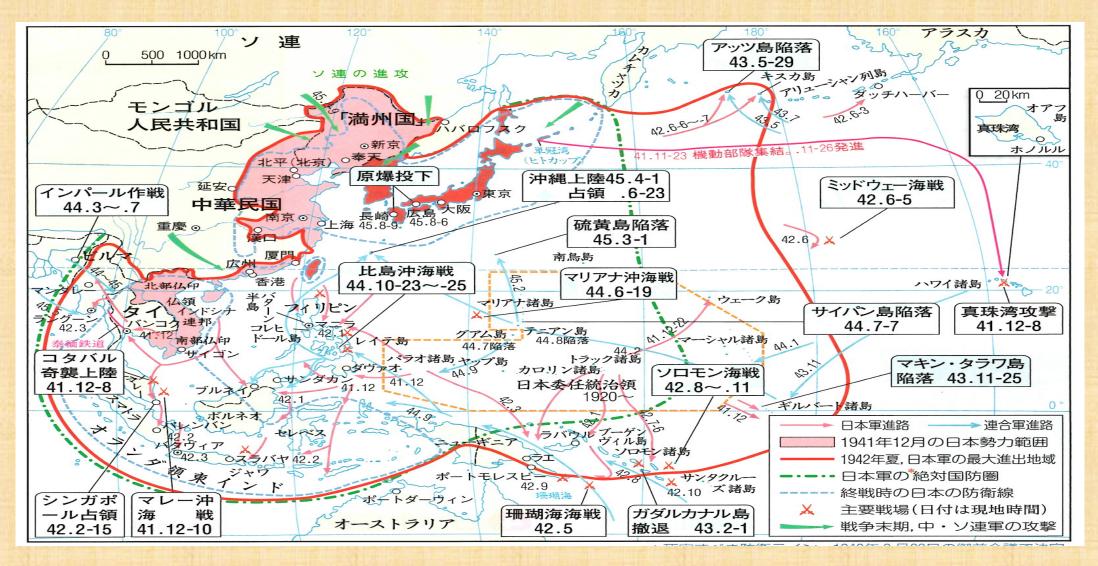
「対英米蘭蒋戦争 終末促進に関する腹案」⇒ | | / | 5提出

# (11)「ハル=ノート」と開戦

- ①アメリカ…1/26「ハルノート」を提出 中国からの無条件撤退+満州事変以前への復帰 を要求
- ②日本側はこれをアメリカの最終回答とみなす。
- ③ | 2/| 御前会議
  - →対米英蘭戦開戦を決定、各部隊に通知
- ④12/8陸軍部隊のコタバル奇襲上陸 海軍航空機隊ハワイ真珠湾奇襲攻撃
  - ⇒アジア太平洋戦争発生
- ⑤ドイツ・イタリアの対米宣戦 =第二次大戦の世界大戦化



# 皿、アジア太平洋戦争



#### (1)日本はだれと戦ったのか

- ①米英中との戦争ではない。
- ②連合軍共同宣言によって戦争目的を共有する約50カ国との間の戦争。
  - この戦争目的を実現するための戦争
- ③この宣言が戦後世界・日本を拘束する 国際連合憲章・ポツダム宣言→日本国憲法
- ④連合国(UNITED·NATIONS)
  - 1)中国・アメリカ・イギリス・ソ連、
  - 2)フランス・オランダ・ポーランドなどの 亡命政府など
- 1942年1月連合国共同宣言には26カ国が参加、のちさらに21カ国が加盟 大韓民国臨時政府なども日本に宣戦布告

#### <連合国共同宣言> 1941年1月1日

この宣言の署名国政府は大西洋憲章(中略)に包含された目的及び原則に(中略) 賛意を表し、

これらの政府の敵国に対する完全な勝利が、生命、自由、独立及び宗教的自由を 擁護するため並びに自国の国土において 及び他国の国土において人類の権利及び 正義を保持するために必要であること でに、これらの政府が、世界を征服対を びに、かのとおり宣言する。

- (1)<略>
- (2) 各政府は、この宣言の署名国政府と協力すること及び<mark>敵国と単独の休戦又は</mark>講和を行わない。ことを誓約する。

# (2)なぜ戦争を始めたのか ①東条の説明

- 1)中国からの無条件全面撤退
- 2)南京(=汪兆銘の傀儡)政府否認
- 3)日独伊三国条約の破棄、

というアメリカ側の条件は

「帝国の権威を失墜」させ、

「支那事変」を完遂できず。

「<mark>帝国の存立をも危殆に陥らしむ</mark> る結果となる」

⇒これまでの日本近代の原則にかかわる問題と認識

※「大東亜共栄圏」は?

ただ今、宣戦の御詔勅が渙発せられました。

精鋭なる帝国陸海軍は、今や決死の戦いを行いつつあります。東亜全局の平和はこれを念願する帝国のあらゆる努力にもかかわらず、遂に決裂のやむなきに至ったのであります。

過般来、政府はあらゆる手段を尽くし、対米国交調整の成立に努力してまいりましたが、彼は従来の主張を一歩も譲らざるのみならず、かえって英蘭比と連合し、支那より我が陸海軍の無条件全面撤兵、南京政府の否認、日独伊三国条約の破棄を要求し、帝国の一方的譲歩を強要してまいりました。

これに対し帝国は、あくまで平和的妥結の努力を続けてまいりましたが、米国はなんら反省の色を示さず、今日に至りました。もし帝国にして彼らの強要に屈従せんと、帝国の権威を失墜、支那事変の完遂を切り得たるのみならず、遂には帝国の存立をも危殆に陥らしむる結果となるのであります。

事ここに至りましては、帝国は現下の時局を打開し、<mark>自存自衛を全うする</mark>ため、断固として立ちあがるのやむなきに至ったのであります。

#### ②おそまつな戦争計画

l)「対英米蘭蒋戦争 終末促進に関する腹案」(II/I5)

ドイツがイギリスを破ってくれるだろう。 援助がなくなれば中国も屈服する。友達のい なくなったアメリカでは厭戦意識が高まって やる気を失うだろう

- ⇒ドイツ頼り、希望的観測の戦争計画
- 2)陸軍・海軍二人の参謀の願望がいつのまにか日本の戦争計画に

「東条さんの命令で作成したものの<mark>単なる願望をまとめたものだった</mark>。それが政府大本営連絡会議であっさり通るのには驚いた」(石井秋穂元中佐談)

#### <対英米蘭蒋戦争 終末促進に関する腹案>

#### ◎方針

一 速に極東における米英蘭の根拠を覆滅して自存自衛を確立すると共に、更に積極的措置に依り蒋政権の屈服を促進し、独伊と提携して先づ英の屈服を図り、 米の継戦意志を喪失せしむるに勉む。

#### ◎要領

一 帝国は迅速なる武力戦を遂行し東亜及南太平洋に おける米英蘭の根拠を覆滅し、戦略上優位の態勢を確 立すると共に、重要資源地域並主要交通線を確保して、 長期自給自足の態勢を整う。

凡有手段を尽して適時米海軍主力を誘致し之を撃破するに勉む。

- 二 日独伊三国協力して先づ英の屈服を図る。
- 三 日独伊は協力し対英措置と並行して米の戦意を喪失せしむるに勉む。

四 中国に対しては、対米英蘭戦争特に其の作戦の成果を活用して援蒋の禁絶、抗戦力の減殺を図り在華租界の把握、南洋華僑の利導、作戦の強化等政戦略の手段を積極化し以て重慶政権の屈服を促進す。

五 帝国は南方に対する作戦間、極力対「ソ」戦争の 惹起を防止するに勉む。

# ③戦争の大義 = 「大東亜共栄圏」の建設?

①11月御前会議での不思議な問答

天皇「戦争の大義は何か」 東条「目下、研究中であります」

②東条が出したこたえ

「大東亜共栄圏」の建設 そのための戦争=「大東亜戦争」

「東亜新秩序」を発展させ、欧米列強の植民地支配からアジアを解放し、日本を中心とした「共存 共栄」のブロック=「大東亜共栄圏」を建設

#### 大東亜共栄圏とは

中国や東南アジア諸国を欧米帝国主義 国の支配から解放し、日本を盟主に共 存共栄の広域経済圏をつくりあげると いう主張。

太平洋戦争期に日本の対アジア侵略戦争を合理化するために唱えられたスローガンである。

太平洋戦争勃発直前の第二次近衛文麿 内閣時の外務大臣松岡洋右が最初に 使ったことばだといわれるが、日本を 盟主に東アジアに共存共栄の広域経済 圏をつくりあげるという発想は古くか ら主張されていた。

満州事変期の「日満一体」は、日中戦争期には「東亜新秩序」とその名を変え、東南アジア諸国を侵略対象とする1940年代初頭には「大東亜共栄圏」が主張されるに至った。

(小林英夫執筆「小学館 日本大百科 全書(ニッポニカ)」

### (3)緒戦の勝利

- ①東南アジア・南太平洋に進出
- ・マレー半島・フィリピン・オランダ領
- 東インド(インドネシア)・ビルマなどを占領
- ・ソロモン諸島やニューギニア北部へも進出
- ②初期の「大戦果」のなかで
- 1)持久戦=自存自衛の陸軍

軍主力は中国・満州(対ソ戦)のまま

- 2)短期決戦をめざす海軍・連合艦隊
  - ⇒勝手に戦線を拡大=米豪切断計画 輸送船護衛より艦隊決戦をめざす

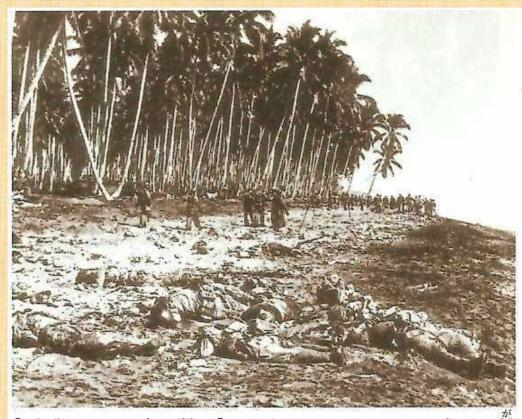
#### 日本の戦線の拡大(1941年12月~1942年6月ごろ) ソヴィエト連邦 ②ミッドウェー海戦 主力空母を失い攻守 日本 の転換点に ❷マレー沖海戦 1941.12.10 アメリカ **○**真珠湾奇襲攻撃 マーシャル諸島 1941.12.8 ●マレー半島上陸 赤道 ギルバート諸島 1942.2.15 開放当時の日本の領土 開戦当時の日本の勢力範囲 ⑤バタヴィア沖海戦・ 日本軍の進出方向 1942年夏の日本軍の前組 スラバヤ沖海戦 ∅ポートダーウィン空襲 日本軍の攻勢 1942.2~3 **③珊瑚海海戦** 1942.2.19 戦局の停滞と転換 日本軍勝利。ジャワ 日本軍による最大規模 日本軍の空襲地点 島上陸 ポートモレスピー政 のオーストラリア爆撃 日本軍の基地 ■ 連合軍の基地 オーストラリア

OE シドニー

× おもな難い

### (4)戦局の転換

- ①ドーリットル空襲(42/4) アメリカの冒険的攻撃⇒心理的影響
- ②ミッドウェー海戦の大敗(42/6) 海軍航空部隊への大打撃 ⇒攻勢から守勢への戦局の変化
- ③ガダルカナル島攻略戦(42/8) →43/2大量の餓死者を出し敗退
  - ⇒制海権・制空権の喪失
  - 輸送船の大量喪失=輸送力の低下



【ガダルカナル島の戦い】 日本軍はガダルカナル島で、餓死をふくむ2万1000名の戦死者を出して敗れた。

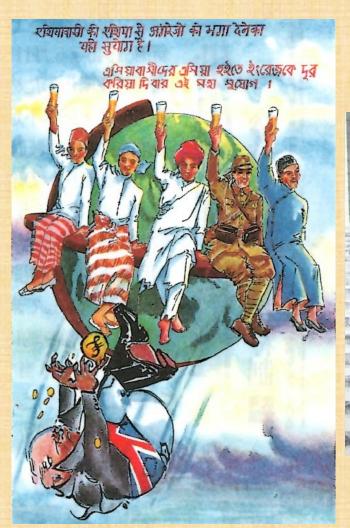
#### (5)絶対国防圏の崩壊~サイパン陥落からレイテに

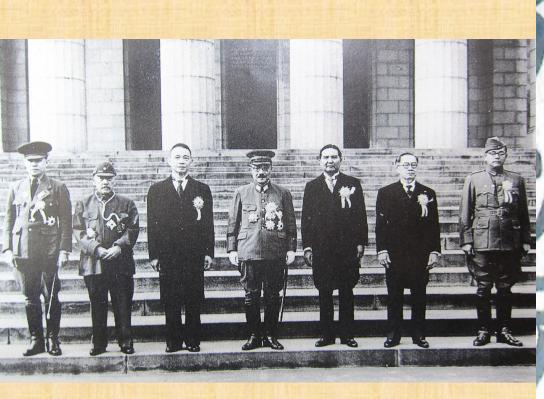
アメリカ、二方面からの飛び石作戦開始 →各地で玉砕あいつぐ、孤立=飢餓も

- ①1944年7月サイパン島陥落
  - ⇒<mark>絶対国防圏の崩壊</mark> 米爆撃機による本土空襲可能に
- ②東条内閣崩壊
  - ⇒戦争終結を望みつつ、手が打て ない状況に。「一撃論」など
- ③1944年10月米軍レイテ上陸・レイテ 沖海戦=日本海軍の壊滅



## IV、大東亜共栄圏の実態





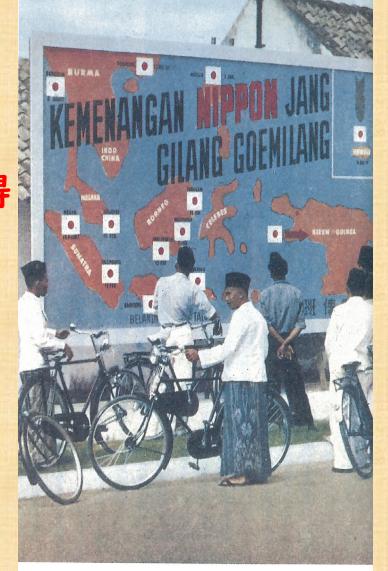


#### 日本軍の東南アジア進出~「独立」と「軍政」

- ①東南アジアに対する「戦争目的」
  - ◎タテマエとしての欧米帝国主義からの解放
    - ⇒「大東亜共栄圏」建設
  - ◎ホンネとしての資源(石油・ゴム・米など)獲得⇒「自存自衛体制」確立
- ②大東亜共栄圏内での「独立」と「軍政」維持
  - 1)「独立」承認

ビルマ…「バモオ政府」フィリピン「ラウレル政府」

- 2)軍政の維持…インドネシア・マラヤなど
  - →インドネシアは独立の方向へ
- 3)仏印 (ベトナム) = フランス(ビシー政権)との共同統治 →45年日本の単独統治に



### 鄭珍恩「チョプスイ~シンガポールの日本兵たち」

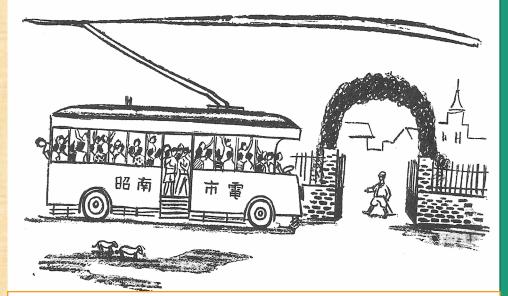
#### 二つの姿

日本人は、1942年2月15日征服者として やってきた。かれらは信じがたいほど傲慢な 態度をとった。

1945年9月5日、かれらの誇大な「前線」は「全面的崩壊」をみた。







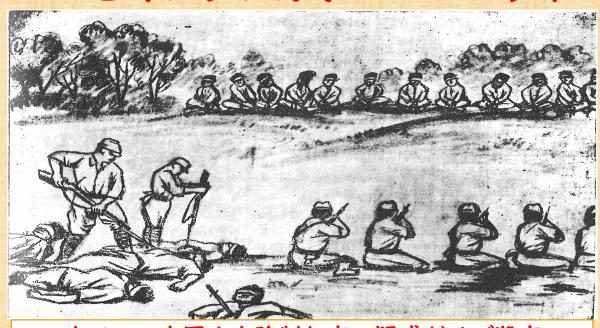
#### 自分の用が済むまでまっておれ!

軍人はしばしばすべての法や秩序を超越しているかのようにふるまった。ある日のことだった。ある大尉が、パヤ・ルバから町へ行く乗客で満員のバスに乗っていた。そのバスが、当時日本人将校が占拠していたベンダミーアに停まると、彼は運転手にそこで用事を済ますまで待てと命令した。大尉が戻ってきてバスが走り出したのは2時間後であった。

日本人がマラヤを占 領していた3年半の 間、かれらは人間と は思えないほど残酷 で、卑劣で、考えら れないほど自己中心 的であった。(中略) 私は日本占領期にマ ラヤで起きた出来事 を集め、画家劉抗の 尽力を得てそれらを 一連のスケッチにし て記録した。 鄭珍恩

### 日本の東南アジア支配①華僑への虐待

主に華僑(中国人)への迫害・虐殺 …とくにシンガポール・マラヤ



すべての中国人を強制収容、疑惑だけで殺害

日本軍の占領直後、すべての中国人は決められた地域に 強制収容された。そのうち7万5000人が収容所から連れ 去られた。彼らは反日的であるという疑惑を受けただけ で殺されたのである。



シンガポール・日本占領時期 死難人民記念碑(血債の塔) 1942年2月~1945年8月の 日本軍占領時期の市民戦没者 追悼のため建設された

### 日本の東南アジア支配②資源の収奪

東南アジア支配の基本…必要な物資の獲得 「必要なものだけ作らせて奪い取る」

- ①天然資源=石油・ゴム・スズなど
- ②農業における転作強要
- ③東南アジア=モノカルチュア(単一栽培)世界 他の地域に物資を販売し他の地域の物資を獲得
- 4欧米諸国との貿易途絶、日本からの物資は とどかず=経済的孤立状態に

にもかかわらず、日本への輸出のみ実施 物資不足→食糧難の発生、飢餓の発生



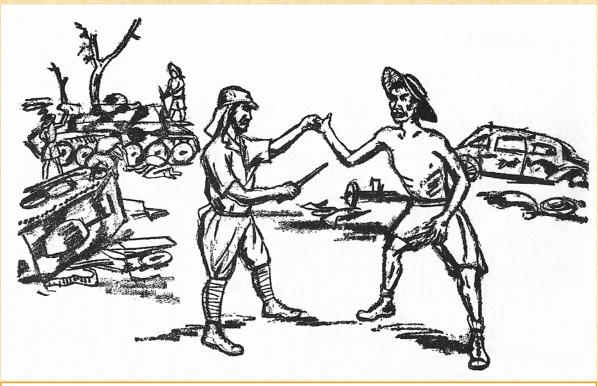
日本が獲得しようとした南方資源

### 物資の収奪とロウムシャの動員

#### 運び出される物資

マレー埠頭での積み込みの様子。マレー人のほかに、イギリス人捕虜も動員されている。





#### サボタージュした労働者の親指を切り落とす

日本人のストライキの解決法はストライキの参加者を殴るということだった。日本統治下では、仕事をさぼったものは、親指を切り落とされた。これがどういうことか、自分の手を見ていただきたい。

### 日本の東南アジア支配③人間の収奪

- ①強制労働の実施
  - =「ロウムシャ」としての収奪 鉱山労働や米作りへの動員 泰緬鉄道への動員
- ②賃金としての「軍票」 貿易途絶により物的な裏付けがない 「単なる紙切れ」 ⇒破滅的インフレの発生
- ③女性の収奪=慰安所



上:タイとビルマを結ぶ泰緬鉄道の建 築現場。白人捕虜を含む多くの労働者 が動員された。

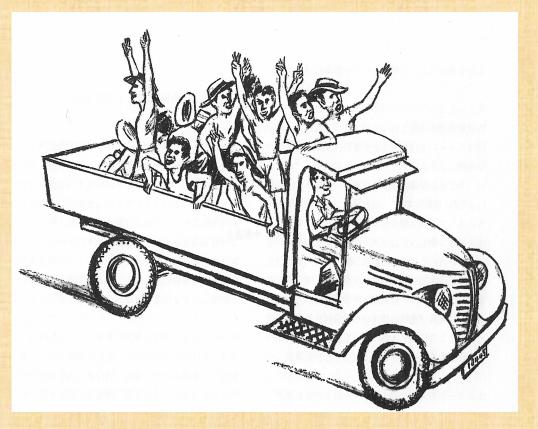
下:賃金や購入に用いられた「軍票」





#### 泰緬鉄道の悲劇

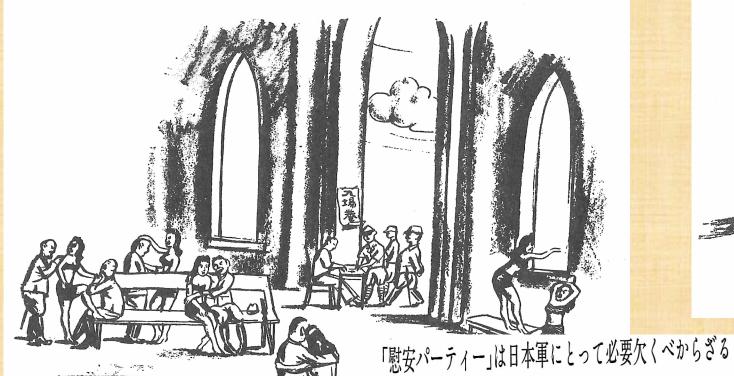
大急ぎで泰緬鉄道を建設しようとした日本人は、 不可能なことに挑み、失敗した。病院の施設が全 くなかったため、泰緬鉄道での、20万人の死者、 死を逃れた残りの傷病者は出るべくしてでたので ある。



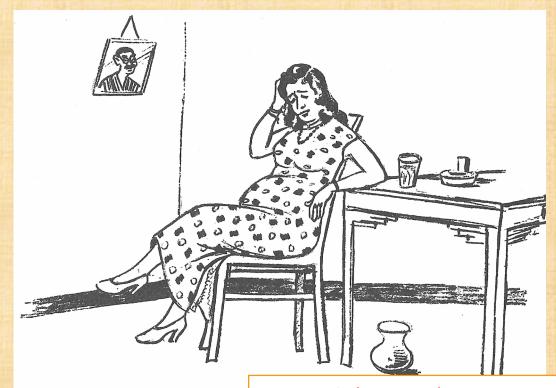
#### かれらは決して希望を失わなかった

捕虜の多くは泰緬鉄道のため強制労働に送り出された。「死の鉄路」と呼ばれたこの鉄道は完成までに多くの死者を出した。シンガポールの 監獄はそれに比べればまだ「いい場所」だった のであろう。

#### 慰安パーティー



・慰安ハーケィー」は日本年にとりて兄女八、 こうとものであった。日本人の最初の仕事はすべての娼婦を集めて、彼女たちを異なる階級、つまり士官用、兵士用というようにそれぞれの階級に分類することであった! あるところでは教会が買春宿として使われていた。



#### 現地妻と子どもたち

日本の占領時代、多くの中国人の女性が日本人将校の妻にさせられるという状況に追いこまれた。今これらの女性たちは身ごもったままで置き去りにされている。どちらの国籍をこの子供たちは持つことになるのだろうか? それが問題だ!

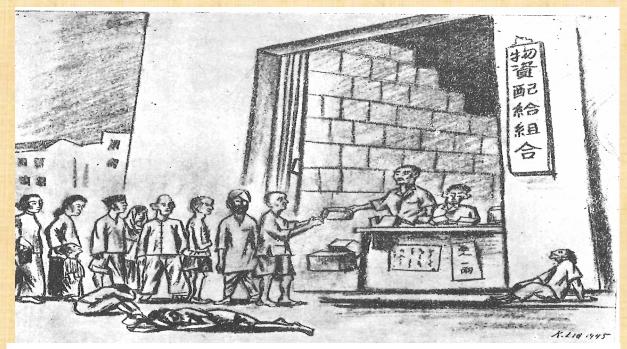
#### 日本の東南アジア支配④軍政

- ①現地のことを全く知らないものによる軍政 朝鮮・台湾での植民地支配とくに皇民化政策を導入 →日本語使用、皇居遙拝や神社参拝の強要、 ラジオ体操など
- ②祖国を脱出したフィリピン・ラウレル大統領の述懐 「三年間の占領を通してフィリピン民衆は日本人が 『残忍なる民族』という観念を抱くに至った」 それをを聞いた村田省三(軍政官) 「民衆心理を把握し得ざりし我失敗」





防衛義勇軍の訓練(インドネシア)



#### 日本式組合

物資のすべては、日本人が管理する組合に集められた。 日本人は、組合は人種とか皮膚の色に区別なく、すべ ての住民に公平に分配するものであると主張した。残 念なことに結果は日本人による物資の貯蔵と日本人以 外の飢餓であった



ジャワの農村 日の丸を掲げて農作業を行っている

### 対日「協力」者たち=抵抗と協力の分担

- I)ビルマ…アウンサン将軍とバモオ政権 (ビルマ独立義勇軍)
- 2)フィリピン…「ラウレル政府」

現地指導者…協力と抵抗を「役割分担」

- 3) 蘭印(インドネシア)…スカルノら日本軍に協力し、オランダとの戦いを準備、
- ⇒日本側から「独立」付与の約束を手に入れる
- 4)インド…チャンドラボーズ(インド国民会議)
- インド国民軍結成、インパール作戦に参加

(cf.ネルー・ガンディーら国民会議主流派は非協力運動=「インドから出て行け」)



スカルノ(1901~70) インドネシア共和国の初代大統領。独立運動の指導者。インドネシアを占領した日本軍の下で独立準備を進め、45年8月17日、日本降伏直後に独立を宣言した。右はハッタ

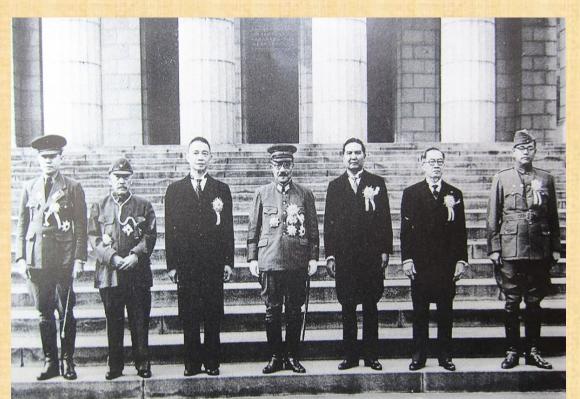
#### 大東亜会議開催…各地の傀儡政権を結集

- ①1943年11月東京で開催
- ②参加者=占領地の傀儡政権代表 東条首相

「満州国」張景恵国務総理、 南京政府の汪兆銘行政院長 タイのワン・ワイタヤコン首相名代 フィリピンのラウレル大統領 ビルマのバー・モー首相 チャンドラ・ボース自由インド仮政府首班 (オブザーバー)

#### ③大東亜宣言

太平洋戦争の完遂,大東亜各国の共存 共栄秩序の建設,自主独立の尊重,互恵 提携をはかり,「大東亜を米英の桎梏 (しっこく)から解放」する



左からバー・モウ (ビルマ)、張景恵(「満洲 国」)、汪兆銘(「南京政府」)、東條英機、ワンワ イタヤーコーン(タイ)、ホセ・ラウレル(フィリピ ン)、スバス・チャンドラ・ボース(インド)

#### 抗日ゲリラ

旧宗主国・国内問題とかかわり複雑な動きに

- ①ベトナム
- ホーチミンらベトナム独立同盟(ベトミン) 共産主義者が中心⇒日仏双方と戦う
- 2ビルマ
- 当初、反英で日本側に協力していたアウンサン
- →反ファシスト人民自由連盟結成、武力抵抗に
- ③マラヤ人民軍…中国人主体
- 4インドネシア…親日派とも協力しつつ活動
- ⑤フィリピン…米軍支配下のゲリラ、地主支配に批判的なゲリラの存在、(貧農主体の親日派)



アウンサン(1915 - 47) ビルマ(ミャンマー)の独立 の父

日本の機関の協力で軍事訓練を受けて、ビルマ独立軍を結成。44年反ファシスト人民自由連盟を結成、日本と戦う。'45年ビルマ独立を実現したが、保守派によって暗殺された。アウンサンスーチーの父

#### フィリピンにおける日本支配

- ①フィリピン…アメリカ、1945年の独立を約束 アメリカ文化の浸透、独立運動の伝統 →自治政府成立…ケソン・オスメーニャら
- ②1941~日本軍侵攻→降伏後もゲリラ戦継続
- ③日本軍政…報道統制、フィリピン版大政翼賛会・隣組 経済の破壊=輸出産品の滞貨、工業製品輸入停止 輸入停止・作付転換=食糧不足、軍票使用⇒物価上昇 ⇒親日感情は形成されず。日本人は「野蛮」との再認識
- ④日本側の協力組織 フィリピン共和国(ラウレルら)の「独立」承認 →ゲリラ討伐には非協力的 それまでの親日勢力(反地主闘争をすすめる)の反発



アメリカ人の「日本人像」 フィリピンの人びとはこうし たアメリカの目でやってきた 日本兵を見、「納得」した。

### フィリピンにおける抗日ゲリラ

- ①二つの対立するゲリラ組織=日本軍に激しく抵抗⇒日本の完全な統治は実現せず
- 1)ユサッフェゲリラ…アメリカ軍に直属
  - →米軍と結び活動を展開・情報を米軍に連絡
  - →アメリカからの報酬を期待
- 2)フクバラハップ(抗日人民軍)
  - …社会党・共産党系の農民運動が前身 反地主運動と結合と米系ゲリラと対立
- ⇒アメリカ復帰後、米軍に弾圧される
- ②フィリピン独立(1946年) 親米派(+親日派)、地主勢力中心の独立



アメリカ秘密連絡員と接触するユサッフェゲリラ



### IV、兵士たちはどのように死んだのか



【ガダルカナル島の戦い】 日本軍はガダルカナル島で、餓死をふくむ2万1000名の戦死者を出して敗れた。



#### 兵士たちはどのようにして死んだのか

◎広義の餓死者…140万人(60%強)

(栄養失調・使用失調による戦病死者)

- ◎海没死者…約40万人(20%弱)
- ◎戦闘死者など…約20%

(特攻死・バンザイ突撃・日本兵による「処置」・自殺なども含む)

- ◎藤原彰『餓死した英霊たち』
- ⇒戦死者の大半を、広義の「餓死者」や海没 死者であることを論証
- ◎吉田裕『日本人兵士』
- ⇒藤原の研究を深化させる



吉田裕『日本人兵士』 戦争史研究の第一人者 である筆者が藤原の研 究を深化させた



藤原彰『餓死した英霊たち』 日本軍士官であった筆者が日本 軍の死者の六十%強が広い意味 の餓死者であったことを論証、 大きな衝撃を与えた。

#### 餓死の現実(ガダルカナル島での青年将校の手記)

12月27日(1942年)

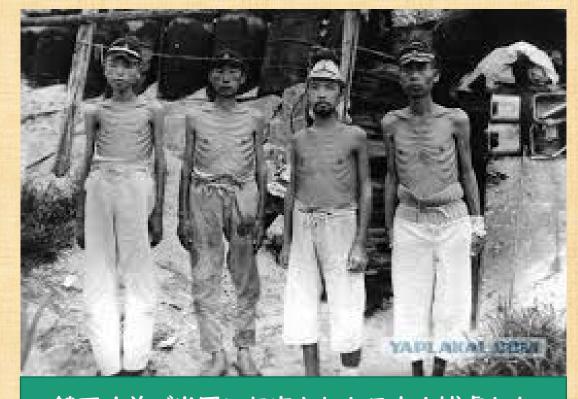
今夜もまた数人が昇天する。ゴロゴロ転がっている屍体に蠅がぶんぶんたかっている。 どうやら俺たちは人間の肉体の限界まで来たらしい。

生き残ったものは全員顔が土色で、頭の毛は赤子の産毛のように薄くぼやぼやになってきた。

やせる型の人間は骨までやせ、越える型の人間はブヨブヨに膨らむだけ。歯でさえ金冠や充填物が外れてしまったのをみるとボロボロに腐ってきたらしい。

この頃、不思議な生命判断が流行りだした。 この非科学的であり、非人間的である生命判断は 決して外れなかった。

立つことの出来る人間は…寿命三〇日間寝たきりで起きて坐れる人間は…三週間寝たまま小便をするものは…三日間ものを言わなくなったものは…二日間またたきをしなくなったものは…明日



餓死寸前で米軍に収容された日本人捕虜たち

### (I)餓死·戦病死

背景:制海・制空権喪失による深刻な食糧不足 軍需品の安着率96%(42)→51%(45)へ

- 1)マラリアと栄養失調 栄養失調を原因とするマラリアが多い
- 2)戦争栄養失調症…極度の痩せ、食欲不振、貧血、 慢性下痢→「生ける屍のようになる」
  - · 「続発性栄養失調症」…アメーバ赤痢・マラリア・結核によって引き起こされる栄養失調症
  - ·原発性戦争栄養失調症

#### 原発性戦争栄養失調症~身体が戦争を拒否

ストレスや不安、緊張、恐怖などによる体内環境の変調からくる摂食障害(拒食症)を発症

「食糧が不足していないのに、痩せ、貧血、 浮腫、慢性下痢を主徴とする病兵が続出、痩 せさらばえ、悪液質になって死亡するものが 多かった。マラリアなどすべてを除外しても 原因不明の栄養失調症が多発した」

「実は、兵士は拒食症になっていたのである。 食べたものを吐き、さらに下してしまう。壮 健でなければならない戦場で、身体が生きる ことを拒否していた」

(野田正彰『戦争と罪責』)

⇒「治癒証明」をだした途端に自殺する兵士



戦争栄養失調症患者を描いた作品 吉田裕『日本人兵士』p38

### (2)海没死 (溺れ死)

- ①海軍182000人陸軍176000人
  - ②原因と背景:アメリカ海軍の潜水艦攻撃、 輸送船の不足と劣化からくる過密・劣悪な環境 ⇒熱射病
- ③魚雷爆弾の命中(爆発による死者・負傷者)
  - ⇒パニック(失神者・精神錯乱者)
  - ⇒浮遊物の奪い合い
- 4さまざまな死因
- 1)圧抵傷(高所から地上などに落ちたときの衝撃)
- 2)水中爆傷(肛門からの水圧で内部から腸壁を破る)
- 3)突然の発狂者が続出(出港直前・救出後)



揚陸作業中に航空攻撃を受け被弾 炎上した輸送船(綾戸山丸) 1942年7月22日、ニューギニ ア・ゴナ

### (3)戦場における死~「戦陣訓」の思想

- ①戦陣訓のきっかけ=中国戦線での軍紀の退廃 当初案「上官暴行・抗命・喧嘩・同僚殺傷・飲酒・逃亡・強姦・ 放火・略奪等の低次の非違非法の矯正を単刀直入・直截簡明に記述 ⇒このような文章が「敵」にわたればどうなるのか。
- ②直接的な表現を避け、抽象的表現に =全く別の意味合いをもつようになる
- 1)「天皇のための死を賛美する」との死生観が確立
- 2)捕虜を恥辱とする思想を公式に定式化 ⇒投降を事実上禁じる

日本軍捕虜 3万5千人、ドイツ94万5千人、イタリア49万人

- 3)捕虜の権利への無知。捕虜という立場への絶望感 ⇒積極的な米軍協力・情報提供に
- ③「玉砕」の思想への転嫁 「降伏を拒否して死ぬまで戦う」というあり方へ ※玉砕…玉が美しく砕けるように、潔く死ぬこと

《戦陣訓》

第七 死生観 死生を貫くものは崇高なる献 身奉公の精神なり。 生死を超越し一意任務の完遂 に邁進すべし。 身心一切の力を尽くし、従容 として悠久の大義に生くるこ

とを悦びとすべし。

第八 名を惜しむ 恥を知るもの強し。 常に郷党家門の面目を思ひ、 愈々奮励して其の期待に答ふ べし。 生きて虜囚の辱を受けず、死

生きて虜囚の辱を受けず、死 して罪禍の汚名を残すこと勿 れ。

#### 「玉砕」の思想=「無駄死」の強要

戦陣訓の思想⇒「玉砕」の思想への転化

「降伏を拒否して死ぬまで戦う」あり方を要求

- ①アッツ島の玉砕…最後の突撃による全滅と それに先立つ傷病兵の「処置」(自決強要・殺害)
- ②バンザイ突撃による全滅(タラワマキン、サイパン)
  - ⇒戦術面から見て「無益な死」「無駄死」が強要される
- ③「玉砕」の禁止…徹底抵抗によって進行テンポを遅らせることで厭戦気分を生み出す

(ペリリュー・沖縄)

4本土戦準備にももちこまれる



バンザイ突撃による戦死者 (サイパン島)

※玉砕…玉が美しく砕けるよう に、潔く死ぬこと

### (4)「処置」という名の殺害

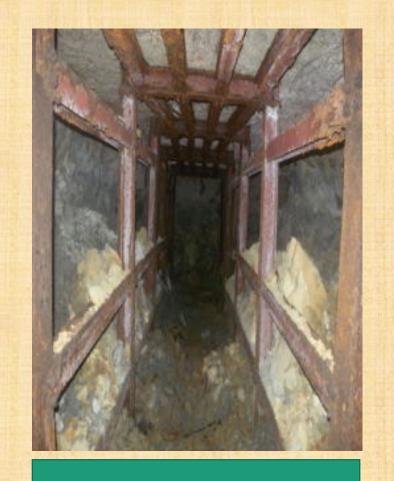
#### 日本軍自体による兵士の殺害

①傷病兵の殺害

部隊の移動やバンザイ突撃にさいし、収容できないものへの毒物注射や自決強要命令

「戦闘に絶えざるものは適宜処置すべし」との命令

- ②「後尾収容班」「落伍者捜索隊」
  - →行軍に際して落伍者に自決を強要、 落伍者を捜索自決を強要・殺害
- ③「自傷者」の増加=厭戦気分の蔓延。 「とうとう自分で負傷しやがった」
- 4軍法会議によらない処刑
  - …食料獲得を目的に部隊を離れた兵士



沖縄豊見城市 第24師団第二野戦病院壕

### (5)特攻死

- ①航空特攻…航空機・特攻専用機(桜花など)水上特攻…モーターボート(震洋・マルレ艇) 戦艦大和の沖縄出撃
  - 水中特攻…改造魚雷(回天)・潜水兵(伏竜) 空挺特攻…敵飛行場への強制着陸
  - ⇒特攻兵器の開発は作戦実施以前から開始される。
- ②「肉薄攻撃」(肉攻)⇒対戦車攻撃の中心に 爆薬を収納した急造爆雷を戦車底面に投げ込む
  - ⇒沖縄戦では鉄血勤皇隊などが多く動員される
- ③航空特攻の主な担い手
  - 一般大学の予備将校・少年航空兵 未成年者の割合 陸軍23.5%、海軍43% (最年少16才)

#### 航空特攻の実態

- ①特攻による戦死者
- 海軍:243|人陸軍|4|7人
- 計:3848人
- ②特攻による戦果
- ・正規空母=撃沈ゼロ・撃破26
- ・護衛空母=撃沈3・撃破18
- ・戦 艦=撃沈ゼロ・撃破15
- ・巡洋艦=撃沈ゼロ・撃破22
- · 駆逐艦=撃沈|3·撃破|09
- ・その他(輸送船・上陸艇など) =撃沈31・撃破219

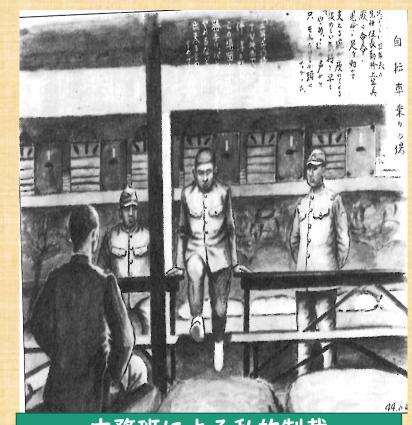
### (6)自殺

- ①自殺を増やす日本軍の体質
  - 1)内務班での私的制裁

(物理的暴力と精神的苦痛)の存在

- 2)捕虜を嫌悪する姿勢(「戦陣訓」の思想)
- ②戦争末期の兵員不足からくる根こそぎ動員
  - ⇒肉体的・精神的に適応できない兵士の自殺
- ③退却戦において捕虜になることを嫌うもの 硫黄島の例

「敵弾での戦死は3割程度、6割が自殺、1割が他殺、一部事故死」



内務班による私的制裁 \_\_\_「自転車乗り」

### (7)『ジャパンゲリラ』

食料強奪・人肉食のための殺害 「第三の敵は『ジャパンゲリラ』とよん だ日本兵の一群だった」

⇒日本人も、現地住民も襲撃

元兵士の証言(京都新聞社『防人の歌・ルソン編』) 自分の直感通り石の上に置かれた肉塊は、まさしく山麓の畑地を 見回りに来ていた現地人をとらえ、その体を切り裂いて持ち帰り、 太陽の直射に当てて自然の燻製にしていたのだった。(中略) このようにして隊内には、いつとはなく人肉を常食する空気がつ くり出された。相手はいずれも現地人で、山の中へ入り込んで捕 らえられたら、それで終わりだった。(中略)自分が覚えている だけでも、こうして食肉にされた現地人は三十五人・・・いや、 四十人は超えていた」



映画『野火』(塚本晋也監督) レイテ戦を描いた大岡昇平の小説 が原作。飢餓の中、生き続けよう とする日本兵の姿が描き出される



### 砕け散っていく日本兵~艦砲射撃のなかで

彼等はヤシの丸太の粘土で固めた砲台が、土台ごと吹き飛ぶのを見た。ヤシの並木が根元から燃え、梢から仕掛け花火のように焔を吹き上げるのを見た。 隣にいた戦友が全然いなくなり、気がつくと彼自身も大腿の肉がそがれていたり した。

ある者は胸に手を当てて眠るような格好で横たわっていた。頬をくだかれ、眼球 が枕元に転がっている死体もあった。首がない者もいた。

手のない者、腸が溢れて出ている者、想像を絶したこわれ方、ねじれ方をした人間の肉体がそこにあった。

空中には掘り返された土の匂い、火薬の匂いがまじって、異様にツンとする匂い が漂っていた。

いつもの大言壮語に似ず目を吊り上げて、ふるえている下士官がいた。両手をだらりと下げて、壕の外へ歩き出す見習士官がいた。土に顔を埋めて泣きじゃくっている補充兵がいた。最もよく訓練された下士官でも、自分の身体がこのまま空中に飛び上がり、ずっと後ろの林の中へ、ふわりと着陸する奇跡は起こらないものかな、ということを考えた。(『レイテ戦記・上』P79)

### 砕け散っていった人びと

- フィリピンにおける死者
- ①米軍:約16,000人(陸軍のみ)
- ②日本軍:陸軍約336,000人、合計約46.5万人 砲撃・斬り込み・米兵やゲリラとの戦闘、敗残兵狩り 自決・餓死・戦病死・「処置」・処刑・・・ 水没死・特攻死
- ③フィリピン人の死者:約111万人

日本兵との戦闘、日本兵による虐殺、「狩猟」の犠牲 アメリカ軍の艦砲射撃・空爆、アメリカの弾圧 親日派フィリピン人への報復、ゲリラ間の抗争



レイテ島タクロバンの観音像("マドンナ オブ ジャパン") 当地の観光名所でもある。

### フィリピンに与えた傷と戦後賠償

- ①フィリピンの物的被害
  - 1)フィリピン全土が荒廃
  - 2)廃墟となったマニラ⇒復興されないまま無秩序な発展
  - 3)徴発によりレイテの家畜の半分から2/3が喪失
  - 4)艦砲射撃や爆撃…公共施設の80%、個人財産の60%が破壊
- ②戦後賠償として
  - I)政府によるアメリカへの請求額 約800億ドル⇒支払われた額が6.2億ドル
  - 2)日本の賠償額:5.5億ドル(1980億円)。 ただし役務提供の形式



「なぜ日本人はやって来たのですか?」

#### 《参考文献》

吉田裕「アジア・太平洋戦争」「日本軍兵士」 伊香俊哉「満州事変から日中全面戦争へ」 吉田裕・森茂樹「アジア・太平洋戦争」森武麿「アジア・太平洋戦争」 江口圭一「二つの大戦」「十五年戦争小史」 藤原彰「餓死にした英霊たち」「日中全面戦争」 「東南アジア現代史Ⅰ・Ⅱ」 ほるぶ出版「写真記録 日本の侵略:中国/朝鮮」 新井利男・藤原彰編「侵略の証言」、野田正彰「戦争と罪責」 劉抗・中原道子「チョウプスイ~シンガポールの日本人たち」 京都新聞社「防人の詩ルソン編」「レイテ編」 大岡昇平「レイテ戦記」「野火」、保阪正康「帝国軍人の弁明」 高校用教科書(実教出版)高校用図表(浜島書房・山川出版社・帝国書店)